





## 世界史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

1. この問題用紙は、16 ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには、絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. 解答用紙は、持ち帰らないこと。
10. この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は、60 分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章をよく読み、下記の設問に答えなさい。

農耕の民と遊牧の民の交易や抗争は長い歴史をもっている。遊牧民は畜産品を、農耕民は穀物や織物を持ちより、互いに交換した。また遊牧民は、農耕の民にとって必要な犁をひく馬や牛といった大型家畜をもたらす人々でもあった。さらに、長距離交易の担い手でもあった遊牧民の手を経て、北方の寒冷地帯の毛皮などがもたらされた。

牛や羊などを追い、ユーラシアの草原や半砂漠地帯を遊牧し、日頃より騎馬に長じた遊牧民のなかから、部族間の軍事的結合を強め、遊牧国家を形成するものも登場する。前6世紀から前3世紀頃、イラン系の遊牧民である  は、南ロシアの草原地帯を支配し、草原の道に沿って、その影響は広くシベリアにも及んだ。

中国を最初に統一した秦<sup>a</sup>は、北方の騎馬遊牧民匈奴からの攻撃に備えるため、戦国時代の趙や燕が築いた長城を連結し、甘粛から遼東まで繋がる万里の長城を築いた。その匈奴諸部族を統合し、さらに全モンゴル高原を統一して建国間もない漢に攻め入り、漢の高祖を攻囲して屈辱的な講和を強いたのは  であった。

前漢の武帝は、何度も匈奴遠征を行い、衛青、霍去病<sup>かくきょへい</sup>らの活躍により、匈奴に打撃を与えた。さらに、武帝は、匈奴を挟みうちにするため、 を大月氏に派遣し、同盟へ向け働きかけたが成功しなかった。だが、 の報告により、西域事情が明らかになり、東西交易が活発化した。また、後漢の武将班超<sup>b</sup>は、和帝より  に任ぜられ、西域50余国を服属させ、西域経営<sup>c</sup>に活躍した。

三国時代に続く五胡十六国時代には、匈奴をはじめとする遊牧民が、混乱が続く華北など中国内地に進出し、西晋の八王の乱以降、華北を中心として、次々に短命の政権を建てた。混乱を收拾し華北を統一したのは、鮮卑の一部族  が樹立した北魏であった。

5～6世紀、匈奴や鮮卑に代りモンゴル高原を支配したのは、 であった。西域の中心、タリム盆地も彼らの支配下にあった。だが、6世紀中葉以

降、突厥が台頭し、モンゴル高原から中央アジア一帯を支配する。しかし、突厥は6世紀末頃東西に分裂した。630年、東突厥は唐に討たれ、その後再興するも、744年、に滅ぼされ、西突厥も8世紀初めに分裂し、その後滅亡した。

唐は諸民族を含む大帝国であった。世界帝国とも呼ばれている。唐には五胡十六国時代以来の遊牧民の子孫に加え、周辺諸民族からの移住者も多かった。安史の乱の首謀者である安祿山も系突厥人であった。

唐末、モンゴル系の遊牧狩猟民である契丹族が台頭する。彼らは遼河上流域で遊牧生活を送っていたが、9世紀中葉以降唐が衰退し、840年がキルギスの侵入により崩壊したあとをうけ、次第に勢力を広げ、中国東北地方・モンゴル高原を支配し、華北に進出する。

五代十国時代、後唐の重臣石敬瑭<sup>せきけいとう</sup>は契丹(遼)の援助を受け、後晋を建国した。その見返りとして、彼はを契丹に割譲してしまう。後晋は契丹に滅ぼされる。その後、後周の世宗、宋の太祖、太宗などがその地の奪還をはかったが、成功しなかった。宋朝は契丹(遼)、女真(金)、モンゴル(元)と北方の諸族から次々と重大な挑戦を受け苦境に陥ることになった。

契丹が建国した遼は遊牧民族と農耕民を分けて支配する体制、を敷いた。北方の遊牧民はそれぞれ固有の部族制によって、農耕民は州県制によって支配する体制であった。五胡や北魏のように、遊牧民の征服者が、中国文化の影響を受け、漢化し、支配能力を失ったことを恐れての措置であった。

契丹に続き、東北の半猟半農のツングース系民族女真族が台頭し、12世紀初頭に遼から独立し、金を建国する。13世紀、金はモンゴルに滅ぼされたが、女真系の人々は、金の崩壊後も東北に残り、明末に至り、建州部の首長ヌルハチが女真族を統一し、再び勢力を広げ、満州族として中国全土を征服している。狩猟の民は、弓矢に長じており、とくに起伏に富んだ山地や高原で狩猟を営む人々は、遊牧の民と同様に頑強な戦士の供給源であった。農耕や牧畜の民でも狩猟に長じた人々は同様の働きをした。

また太陽の下で、あるいは風雨にめげず戸外で働く農民は、都市の住民よりもはるかに鍛えられている。それでも、兵士としての農民は、騎馬に長じた遊牧の

民や弓矢に長じた山地の狩猟民に劣るかもしれない。だが、つい最近に至るまで、農民は国民のなかで最も人口の多い階層であった。それぞれの文明は彼らが生産する主穀によって養われていた。中国でいえば、万里の長城も、大運河も動員された農民が作りあげたものであった。

設問 1 文中の空欄(ア～コ)にもっとも適する語句を記入しなさい。

設問 2 文中の下線部(a～e)に関する下記の質問に漢字で答えなさい。

- a 始皇帝が全国に施行した中央集権的な地方統治制度の名称を記しなさい。
- b 西域の事情を知った武帝は良馬を得ようと大宛に遠征軍を送ったが、その良馬の名称を記しなさい。
- c 班超の兄の班固が書いた『漢書』は、前漢の司馬遷『史記』の歴史記述の形式にならい、それを完成させたが、その記述形式の名称を記しなさい。
- d 金の太祖が始めたという女真族の行政・軍事組織の名称を記しなさい。
- e 唐代の労役の一種で、地方官庁での土木事業や租税の保管・輸送などの臨時の労役を指すものの名称を記しなさい。



〔Ⅱ〕 次の文章(ア～イ)をよく読み、文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

(ア) 1812年のアメリカ＝イギリス戦争後、1817年に第5代アメリカ大統領に就任した [ 1 ] は、孤立主義を柱とする外交政策を進めた。その後、1840年代半ばからは、西部開拓を神から与えられた使命だとする [ 2 ] 説が唱えられるようになった。

アメリカは南北アメリカ大陸からヨーロッパ勢力の締め出しを図り、1819年にスペインから [ 3 ] を買収した。その後、メキシコなどへの領土的な拡張を実現させていった。例えば、1846年に [ 4 ] 併合をめぐる国境問題によってアメリカ＝メキシコ戦争が発生し、その結果、メキシコから巨大な国土を割譲させるに至った。

同戦争の敗戦後のメキシコでは、先住民出身でメキシコ内乱時に自由主義派政府を指導した [ 5 ] (1806－72)が大統領になり、国内の内乱をおさめ、同国の民主化と近代化を進めていった。 [ 5 ] は教会の土地所有を禁止する改革などをおこなった。

(イ) 1971年、国際収支の悪化が続いていたアメリカでは、 [ 6 ] 大統領によって金とドルの交換停止が発表された。それによりブレトン＝ウッズ国際経済体制は転換点を迎え、その後、多くの国が固定相場制から変動相場制に移行した。ところが、 [ 6 ] 大統領は [ 7 ] 事件によって辞任に追い込まれた。その後、インフレーションと不況が同時進行するスタグフレーションに苦しむアメリカでは、1981年に第40代大統領に就任した共和党出身のレーガンによって、レーガノミクスと呼ばれる経済政策が実施されることになった。この政策には新自由主義の考え方が反映されていた。

一方、イギリスでは1979年に [ 8 ] 党出身のサッチャーが同国初の女性首相として就任し、新自由主義の政策を展開していた。さらにサッチャーは1982年にアルゼンチンとの間で生じた [ 9 ] 紛争(戦争)にも対処した。

日本でも1982年に [ 10 ] 政権が誕生した。同政権は国鉄や電電公社の

民営化を実施するなど、レーガンやサッチャーたちと同じく新自由主義的な改革をおこなったといわれている。

- 〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

金は妖しい輝きをはなちながら、人類を魅了し続けてきた。その妖艶な魅力の虜とりことなって、破滅への道を歩いた人間は数知れない。

金は他の元素と結合することがほとんどなく、そのままの形で採集され、錆びずに輝きをたもち、やわらかく、さまざまな形に変形できることから、装飾品や権力の象徴としてもちいられてきた。金は塊ばかりでなく、細い糸のような形状にもなれば、厚さ数ミクロンの箔にもなった。古代エジプトでは、金は王であるファラオのみが所持することが許される金属であった。<sup>1</sup>金は、その輝きと希少性から、権力の象徴として選ばれたのであった。

やがて、その希少性と分割の容易さから、金は貨幣としての役割をもつようになった。最初は金の延べ棒や穀粒のような形で、金の純度と重量を尺度として取引がおこなわれたのであろう。金の純度を試すために試金石がもちいられることもあった。金はあまりにも希少であったため、銀にも貨幣としての役割があたえられた。ここから、金や銀は権力ばかりでなく、富の象徴としても人類を魅了することになったのである。

ギリシア神話によると、フリュギアのみダス王は、酒神ディオニュソスの養父<sup>2</sup>を歓待したことにより、ディオニュソスから望みをひとつかなえてやるといわれ、自分がふれたものがすべて金になるように申し出た。しかし、彼は口にしようとした食物が金にかわったとき、間違いに気がついた。みダス王はディオニュソスにもとに戻してほしいと願い出、パクトロス川で身を清めるように指示された。金を生む力はパクトロス川に移り、フリュギアと隣国のリディアに豊富な金をもたらしたとされる。

前7世紀後半ごろ、小アジアのリディアで鑄造貨幣が使われた。また、アケメネス朝ペルシアでは金貨・銀貨が鑄造された。ここで厄介なことが生じてくる。<sup>3</sup>貨幣としての金貨・銀貨は、そこに刻印されている価値をあらわすことになるが、金や銀は、それぞれ商品としての価値ももっている。貨幣に刻印されている価値と、貨幣と同じ重量の商品としての金・銀が同じ価値であれば問題はない

が、商品としての金・銀は、需要と供給によって価格が変わり、貨幣によって示された価値と乖離してくる。同じように、金と銀の交換比率も、貨幣に刻印された価値は一定だが、商品としての金と銀の交換比率はそれぞれの価格の変動によってかわってくる。こうしたことから、貨幣は市場に潤沢に流通する場合もあれば、退蔵され、地金にもどされる場合もでてきたのである。

古代ローマ人も貨幣を多用した。帝国に配置した多くの兵士に対する給料も貨幣で支払われた。権力の中枢に入り込むにも、財力の助けが必要であった。蓄財にたけた富豪のクラススは、カエサルのような武将になることを夢見てパーティアに遠征したが、捕らえられたあげく、溶かした金を喉に流し込まれて処刑された。帝政ローマでは、コンスタンティヌス1世がソリドゥス(ノミスマ)金貨を発行し、のちの地中海交易で基軸通貨として長く使用された。今日のアメリカの通貨ドルの記号\$は、この solidus がもととなっている。

人々は金を求めて世界中をかけめぐった。7世紀頃から、西アフリカのガーナ王国は金を豊富に産出し、ムスリム商人が塩をもって訪れ、金と交換したし、13世紀から16世紀にかけて、ニジェール川流域のマリ王国やソンガイ王国も、ニジェール川中流の都市で塩と金の交易をおこなって栄えた。しかし、より多くの金が存在すると考えられたのは、はるか東方の国々であった。マルコ=ポーロは『世界の記述』のなかで、日本を黄金の国ジパングとして紹介している。コロンブスはこの記述をもとに大西洋を西へとむかった。コロンブスはジパングを発見することはできなかったが、スペインに新大陸という金・銀の宝庫をもたらした。

スペインのコンキスタドールのひとり、ピサロがインカ帝国の皇帝アタワルパを捕らえたとき、アタワルパは法外な取引をもちかけた。アタワルパは自由と引き換えに、自分が幽閉されている部屋を、一度は金で、次は銀で二度満たすというのであった。この身代金の条件は実行されたが、アタワルパはその後処刑されてしまった。大量の金・銀が流入したスペインは、贅沢品や戦争でこれらの金・銀を消費し、大量の銀が流入したヨーロッパでは価格革命がおこった。

より多くの貨幣を求める人間の行動は、貨幣の品質低下をもたらした。貨幣を手にした人々はその周囲を削り取り、削り取った部分を地金にして造幣所へ持ち込み、優良な貨幣と交換し、これを退蔵した。市場には削り取られた貨幣、すな



わち悪貨のみが流通し、受け取りを拒否されることも多かった。また、貨幣を発行する国王も、貨幣に含まれる金・銀の量を低下させ、貨幣の信用を<sup>おとし</sup>貶めた。ヘンリ 8 世は貨幣の大改鑄で知られている。こうした富への執着を批判したトマス・モアはその著書『ユートピア』のなかで、ユートピアでは奴隷が金の鎖でつながれていると描写している。

万有引力の法則で知られたニュートンは錬金術に傾倒していたが、のちに造幣局長官となったことは、あまり知られていない。ニュートンは貨幣の鑄造に心血をそそぎ、貨幣の品質維持に尽力した。しかし、貨幣の時代は終わりに近づいていた。中世以来の商業の発達<sup>のなかで</sup>、信用制度が普及し、私的な手形が支払い手段として用いられてきた。また金細工師の役割が広がり、彼ら(金匠)が発行する金の預り証が、金と同様のものとして流通しはじめた。こうした経過から紙幣が登場し、銀行業への道がひらけてきたのであった。

なんの価値もない紙幣を、広く一般に流通させるためには、金や銀との交換を保証する兌換紙幣であることが必要であったが、多くの銀行は兌換できる金・銀の量を超えた紙幣を発行し、信用制度に不安が生じるたびに、紙幣を金や銀に交換しようとする人々の長い列ができた。交換が停止されることもしばしばであった。こうしたなかで、<sup>9</sup>19 世紀はじめにイギリスで確立した金本位制は、銀行に金準備としてある程度の金を保管し、金の一定量を自国通貨と関係づけさせて、紙幣の信用力をたかめたもので、その後世界各国にひろまった。19 世紀はまた、ゴールドラッシュの世紀でもあった。世紀半ばにカリフォルニアで金鉱が発見されて以来、<sup>10</sup>アラスカ、オーストラリア、南アフリカ等で大量の金が掘り出された。しかし、大量に掘り出された金は、16 世紀のような価格革命をひきおこすことはなかった。それは、信用制度や流通制度の発達にもよるが、多くの金が、金本位制を維持するために、各国の中央銀行の保管庫に吸収されたためでもある。

金本位制は、20 世紀に入ると崩壊し、現在では金と各国通貨とのつながりは断たれている。金は妖しい輝きを秘めながら、各国の中央銀行や資産家の金庫の中で眠りにについている。



問 1 下線部 1 に関連して、テル=エル=アマルナに遷都し、唯一神アトンへの信仰を強制した王の名前を次のなかから選びなさい。

- A クフ王
- B アメンホテプ 4 世
- C ラメス 2 世
- D アルダシール 1 世

問 2 下線部 2 に関連して、古代ギリシアに関する次の文のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A アテネの隷属農民をヘイロータイという。
- B 市場や集会が開かれたポリスの中心部をデルフォイという。
- C 個人の所有地である「持ち分地」をクレーロスという。
- D ソクラテスは、「人間はポリスの動物である」と述べた。

問 3 下線部 3 に関連して、金・銀貨を製造したアケメネス朝ペルシア第 3 代の王の名前を次のなかから選びなさい。

- A ネブカドネザル 2 世
- B キュロス 2 世
- C ダレイオス 1 世
- D シャープール 1 世

問 4 下線部 4 に関連して、カエサル・クラッススとともに共和制ローマで第 1 回三頭政治をおこなった人物の名前を次のなかから選びなさい。

- A アントニウス
- B レピドゥス
- C ブルートゥス
- D ポンペイウス

問 5 下線部 5 に関連して、ニジェール川中流のこの都市の名前を次のなかから  
選びなさい。

- A トンブクトゥ
- B マリンディ
- C モンバサ
- D ザンジバル

問 6 下線部 6 に関連して、マルコ＝ポーロがつかえたとされるモンゴル帝国第  
5 代皇帝の名前を次のなかから選びなさい。

- A モンケ＝ハン
- B フラグ
- C ティムール
- D フビライ

問 7 下線部 7 に関連して、黄金の印章が付された「金印勅書」(1356 年)に関す  
る次の文のうち、もっとも適切なものを選びなさい。

- A 「大空位時代」を終わらせるために皇帝カール 5 世が発布した。
- B シュタウフェン朝の皇帝であるカール 4 世が発布した。
- C 選帝侯の人数は 5 人であった。
- D 選帝侯のなかには大司教も含まれていた。

問 8 下線部 8 に関連して、トマス＝モアと親交のあった人物の名前を次のなか  
から選びなさい。

- A チョーサー
- B エラスムス
- C シェークスピア
- D モンテーニュ

問 9 下線部 9 に関連して，19 世紀にアメリカが併合・領有・買収した地域のうち，誤っているものを選びなさい。

- A フィリピン
- B マリアナ諸島
- C グアム
- D ハワイ

問10 下線部 10 に関連して，17 世紀にオーストラリアを探検したタスマンはこの国の人か，次のなかから選びなさい。

- A イギリス
- B アメリカ
- C オランダ
- D ドイツ

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み、下線(1～10)に関連するそれぞれの間(1～10)にもっとも適するもの(1～4)の中から一つ選び、解答欄にマークしなさい。

<sup>1</sup> 君主の権力が比較的弱かった中世のヨーロッパにおいては、公権力による裁判は絶対的な力を持たず、自力救済が基本であった。そのため、何か不正を被ったり、危害を加えられたりした者あるいはその親族は、その相手を武力でもって攻撃した。これを「フェーデ」という。武力を持つ貴族たちは、お互いにフェーデを繰り返し、血で血を洗う復讐劇が繰り返されることも多かった。しかもフェーデは、お互い同士だけではなく、お互いの領地の領民に対しても行われたため、民衆が犠牲を強いられることになった。<sup>2</sup> そのため一定期間あらゆる戦闘を禁ずる「神の平和」が教会などによって命じられた。

<sup>3</sup> また 12世紀までのヨーロッパでは神判も行われた。神判とは、神に判定を求める物理的試験であり、被疑者が宣誓を行っただうえで、危険な行為を行った。無罪であれば、神による介入が働かずだという前提に基づいている。被疑者が熱湯の中に手を入れる熱湯裁判、灼熱の鉄を持ったりその上を歩いたりする熱鉄裁判、決闘による決闘裁判などがある。<sup>4</sup> イングランドでは、<sup>5</sup> 1492年に、<sup>6</sup> 正式な裁判手続きに基づく最後の決闘裁判が行われたが、制度としては廃止されずに19世紀まで存在した。

12世紀以後になっても、裁判が絶対的な力を持ったわけではない。市民や民衆は、公的な裁判に抵抗感を持ち、<sup>7</sup> 教会や貴族などの仲介者による和解を好んだ。たとえ裁判を始めたとしても、訴えを取り下げて、和解に至ることが多かった。刑事裁判においても、訴えの取り下げは認められていた。このような状態は<sup>8</sup> 17世紀まで続くことになる。その背景には、「司法」という概念が今と違っていたこと<sup>9</sup>のほかに、「許す」という行為が、<sup>10</sup> キリスト教の教えにおいて重要な意味を持っていたことが挙げられる。

問 1 下線部 1 に関連して、中世フランスの君主について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 フィリップ 2 世は、教皇庁をアヴィニオンに移した。
- 2 フィリップ 4 世は、イギリス王ジョンから大陸内のイギリス領土を奪った。
- 3 ユーグ＝カペーは、西フランク王国滅亡後のフランス王国初代の王である。
- 4 ルイ 9 世は、第 4 回・第 5 回十字軍で活躍した。

問 2 下線部 2 に関連して、中世の領主の領地について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 13～14 世紀から三圃制が行われるようになった。
- 2 荘園の農民は、土地の保有を許されていなかった。
- 3 領主は、農民に対して裁判権を持つことはなかった。
- 4 農奴は結婚により領外に出る場合に、領主に結婚税を支払った。

問 3 下線部 3 に関連して、10～13 世紀に修道会やその創始者について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 クリュニー修道院が、イタリアで創設された。
- 2 シトー修道会が、スペインで創設された。
- 3 フランチェスコ修道会を創設したフランチェスコは、財産の無所有と清貧を強く主張した。
- 4 ドミニコ修道会を創設したドミニコは、フス派に対抗して説教活動を行った。



問 4 下線部 4 に関連して、12～13 世紀の文化運動について述べた文として、**誤っているもの**を選びなさい。

- 1 ヴォルムス大聖堂が、ロマネスク様式で作られた。
- 2 アベラールが、唯名論を主張した。
- 3 南イタリアのサレルノ大学が、医学で有名になった。
- 4 アルクインが、フランク王国の文化運動を指導した。

問 5 下線部 5 に関連して、10～12 世紀のイングランドについて述べた文として、**もっとも適切なもの**を選びなさい。

- 1 アルフレッド大王は、デーン人に敗れて、王位を失った。
- 2 クヌートはイングランドを攻めたが、敗退した。
- 3 ヘースティングズの戦いで、ノルマンディー公ウィリアムがイングランド軍を撃破した。
- 4 ヘンリ 3 世は、大憲章を無視して貴族の反抗を招いた。

問 6 下線部 6 はレコンキスタの完成した年である。これに関連して、12～15 世紀のイベリア半島について述べた文として、**誤っているもの**を選びなさい。

- 1 ポルトガルは、アラゴン王国から分離・独立した。
- 2 最後に残ったイスラーム国家の首都は、グラナダである。
- 3 スペイン王国誕生前のカスティリャ王国の最後の王は、イサベル女王である。
- 4 ポルトガルのジョアン 2 世は、バルトロメウ＝ディアスのアフリカ南端への航海を援助した。

問 7 下線部 7 に関連して、イタリア・オランダ・ベルギーの都市について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 アントウェルペンは、17 世紀に発展した。
- 2 北イタリアの諸都市とオランダの諸都市は、ロンバルディア同盟を結んで、皇帝に対抗した。
- 3 スペイン領時代の役職であるオランダ総督が、独立後のネーデルラント連邦共和国の最高官職となった。
- 4 ガンは、中世から絹織物貿易で発展した。

問 8 下線部 8 に関連して、三十年戦争について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 フランスは、カトリック側に立って戦った。
- 2 グスタフ＝アドルフは、プロテスタント側に立って参戦した。
- 3 ヴァレンシュタインは、カトリック軍の中心となって戦った。
- 4 ウェストファリア条約では、ドイツ諸邦の主権が確立された。

問 9 下線部 9 に関連して、ヨーロッパの法や政治にかかわる思想について述べた文として、誤っているものを選びなさい。

- 1 グロティウスは、『戦争と平和の法』で、自然法思想に基づく国際法規の確立を主張した。
- 2 モンテスキューは、『法の精神』で、三権分立を主張し、王権の制限を説いた。
- 3 社会契約説は、自然法思想を基礎としている。
- 4 ホッブズが、社会契約説に基づき、名誉革命を正当化した。

問10 下線部 10 に関連して、16～18 世紀のキリスト教について述べた文として、もっとも適切なものを選びなさい。

- 1 ナポレオンがローマ教皇と宗教協約を結び、プロテスタントの迫害を約束した。
- 2 ルイ 14 世がナントの王令を廃止したため、多くのユグノーが国外に逃避した。
- 3 トレント(トリエント)公会議では、公会議の至上権が確認された。
- 4 ウィクリフは聖書の英訳を図り、教皇や教会制度を批判した。

〔V〕 ロシアにおける農奴解放について、3 行以内で説明しなさい。